

2020年8月17日

あやべ市民新聞(1面)に掲載されました

コロナ禍で減収減益も利益確保

日東精工の第2四半期連結決算

東証一部上場の日東精工(本社・井倉町、材木正己社長)は12日、2020年12月期の第2四半期決算(1月1日～6月30日)を発表。新型コロナウイルスの感染拡大による影響で減収減益となったが、連結ベースでは営業利益、経常利益とも一定の利益を確保した。

4・6%減)となったが、営業利益は5億6900万円(同57・1%減)、経常利益は6億2800万円(同55・2%減)と、それぞれ利益を確保した。

同社の主な需要先である自動車業界は、世界的に需要が減少して工場の稼働停止が相次ぐなど極めて厳しい状況。中国を中心に新車需要が回復傾向にあるものの、世界的には先行きが不透明。5月時点ですぐに下げた今期の業績予想は「当社のグループの事業活動への影響を現段階において合理的に算定することは困難であるため、引き続き未定」として

引き続き未定」としている。材木社長は、世界中の生産工場の停止や稼働低下、サプライチェーンの破壊、世界的な外出抑制による購買活動の急速な冷え込みなどが今回の特徴だとした上で「赤字に陥らず利益を確保できたことは良かった」と説明。「グループ企業の中には業種、業態により忙しいところもあり、受注の回復が鮮明なところもある」とした上で「攻めと守りを同時追求し、下期には大きく業績回復に向かえるよう、引き続き様々な施策を積み重ねる」としている。

【高崎健太】